

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171401698), 法人名 (株式会社 ノア), 事業所名 (グループホームかがやき つつじユニット), 所在地 (函館市富岡町2丁目21番7号), 自己評価作成日 (令和2年2月1日), 評価結果市町村受理日 (令和2年8月21日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kiho\_n=true&JigyosyoCd=0171401698-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年7月20日 (令和元年度分))

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様やご家族様、職員を含む大家族で生活していく場所として、ゆったりとした平屋作りの中で、普段から地域の方々と交流を持ちながら、一人ひとりにあった暮らし方が出来る様に、そして、それぞれの生活のリズムに合わせながらも、皆様で、体操・音楽を楽しんだり、趣味や得意なものを持って頂く事で、「生きがい」を感じながら、認知症の進行を少しでもゆるやかにするように、努力していきます。
・協力医療機関(ご家族様が希望される医療機関も含む。)地域の方々のご協力をいただきながら、住み慣れた地域で繋がりを大切にして、いつまでも安心して生活して頂けるように努めて支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内五稜郭公園に近く、病院やスーパー等々の生活状況が整えられた、落ち着いた住宅地が広がる静かな環境下に立地している。建物は平屋で事務室を中心に左右に1ユニットが入り、計18人の高齢者が生活を共にしている。開設は2005年、介護従事者だった代表が自分の介護の思いを託して設立、15年が経過し現在では当事業所と訪問介護、サ高住を運営している。当事業所の優秀な点は、利用者を規則や規制で抑制することなく、自由に楽しんでほしいを謳っている点を挙げたい。入浴や食事等は枠を設けて実施するのが普通だが、当事業所は重要事項説明書に入浴自由、食事自由と明記し、入浴や食事の時間的な制限を取り外して臨んでおり、現状は職員の動きや人員不足で困難な面もあるが、あくまでも自由を尊重して介護に向っている。また地域的な協力関係も優れた点と注目したい。町内会員として積極的に地域活動に参加し、草刈りからゴミ拾いを担い、また事業所の夏祭りには多くの地元民の参加を得ており、利用者と共に集い、食べ、笑うなど互いの楽しみとなっている。開設後15年を経て、地域と一体になった「グループホームかがやき」に今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、事業所の理念を理解し、サービスの向上に努めている。玄関には理念を目が届きやすい位置に掲示している。	管理者と職員は3項目のケア理念を念頭に日々介護に臨んでおり、また玄関には利用者、訪問者に見えるように掲示もしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	避難訓練・花火大会・草刈りなどの行事の時はご参加を頂き、利用者様との交流をしている。町会の夏祭りを利用者様数名と楽しむ機会がある。	各種ボランティアを受け入れたり、清掃事業に参加したり、地元での夏祭りを通じて相互に交流を深めたりと、当地に開設後培った関係性を大切にしながら、地域との親睦に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じてご参加くださった町内会の方々にも説明しご理解を頂けるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では避難訓練や事故報告、おこなった事等を報告しご意見やアドバイスを頂き、サービス向上の取り組みを心掛けている。	包括センター、家族、町内会役員の参加も得ており、多角的に運営推進会議は開催されている。行事の説明等の他に、事故やヒヤリハットまで報告され、開かれた事業所としてサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議録は事業所内に閲覧として公表されているが、運営推進会議の特性と意義を踏まえ、議事録を全利用者宅に送付し、事業内容の周知と認知症介護の理解に繋げるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会などに参加いただき、事業所の状況を報告し意見やアドバイスを頂いている。	制度の解釈や運営について適時指導を受け、また介護保険の更新や区分変更の申請時に各種情報も交換しながら、信頼性の高い関係継続に努め、日頃からの協力体制を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会を通して一人ひとり理解を深めている。ケアカンファレンスでは一人ひとりのケアについて話し合い対処法等検討している	函館市の指導を受けながら、身体拘束廃止委員会を設置し、指針を定めて3ヶ月ごとに委員会を開催している。議事については現状の介護内容の検証や事例検討等々で、内容については、都度職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立て、身体的な暴力・言葉の暴力・介護放棄・経済的な虐待などの種類があることを知り、内部研修を重ねて、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会などがあれば積極的に参加している。参加しやすいように事前にシフトを調整している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には重要事項説明を行い、ご利用者様には、理解、納得した上で契約をして頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様に意見や要望を聞く機会を設けそれを基に委員会が中心となり話し合いを行った。玄関には意見箱も設置している。	利用者の様子はお便りとして3ヶ月ごとに家族に送っている。玄関には苦情箱を用意し、家族の訪問時には要望や苦情を聞きながら、即応して対処している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等を利用し職員の意見や要望を聞く機会を設けている又日頃から職員から情報収集を行っている。	毎月の会議や申し送りで職員の提案や意見は聞き取っており、また小さな事業所の利便性を活かし、必要により年に複数回は管理者や代表者との職員面談の場も設定し、忌憚のない意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員から正社員への登用を行っており、勤務状況の把握に努めるとともに、各自が目標を持ちそこに向かって努力し達成できるように人事考課も活用している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修への参加をとおして、自分達のケアについての振り返りの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会の会合や研修会等に参加し情報交換や意見交換の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が何を望み、どのようなところに不安を抱えているのかを、ご本人・ご家族様との面談での聞き取りや、基本情報からも拾い、入居後の生活に生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様と話し合いの機会を設けて不安や要望などを聞く機会を作っている、今後の関係性も大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には身体状況や生活歴を把握し必要なサービスを話し合ったうえで、計画を立て実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事作業や軽作業を行ったり買い物に出かけたりしている。日常ではゆっくり隣でお話しさせて頂く時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りを発行し行事の様子や翌月の行事をお知らせしています。面会・お電話などは自由で、お金や病気の事だけでなく色々なお話をさせて頂きながら、ご家族様との時間を大切にさせて頂けるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日来られるご家族もおられ、ご家族との時間を見守っている。中には馴染みの美容室へ行かれる方や通院を利用し外食を楽しまれている方もいらっしゃいます。	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるよう配慮し、遠距離の外出や墓参り等は家族と協力しあい支援しており、昔からの馴染みの関係性が閉ざされない、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・音楽・ゲーム・家事・昔話などを交えて、職員がご利用者様同士が関わり合いを持って暮らして頂ける様に、又、利用者様同士が、おしゃべりしたり、楽しんで頂けるように職員が間に入るなど努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される時は、情報を提供し、移られた先でも困ることがないようにご家族様の相談に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には必ずご本人様やご家族様から生活歴や意向などを確認させていただいている。日々の生活の中でも気づいたことなど職員間で話しあっている。	利用者の日々を支えながら、思いや願い、希望と意向、好き嫌いを把握している。重篤な状態等で意思疎通が困難な状態でも、仕草や表情などから、また生活歴等から本人本位の生活になるように支援に臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様・ご友人その他関わりのある方々からの情報を頂き、馴染みの暮らし方が出来る様にお話し合いを大切に、把握できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・業務日誌・受診記録などで、過ごし方・体調の変化を記録し、申し送り等で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	都度職員が気づいたことや様子等記録したり、引き継ぎなどで伝えている。定期的に行うケアカンファレンスの中で必要なサービス内容を話し合い介護計画を作成している。モニタリングは二か月に一度行っている。	介護計画は本人と家族の意向を踏まえ、スタッフからの日常生活を聞き取りながら作成している。短期目標の達成に向けての進捗度の把握は、介護日誌で把握できる様努め、また病変等が生じた場合は即応して検討し、現実に即した介護計画になるよう、努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入して、日々の様子や変化等の情報を職員が共有し、実践出来る様に心掛けているとともに、申し送りの際には、特に気を付けている。会議を開き、介護計画の見直しに活かせる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊支援や、時にはボランティアを活用するなど柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのあるお店を利用したり地域の行事等がある際は積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご本人の希望を伺い、かかりつけ医を決めて頂きスムーズに医療が受けられるよう支援している。	本人・家族の希望を優先してかかりつけ医への受診・通院を支援している。通院が困難となり往診が必要な場合、家族と話し合い協力病院に切り替わることも生じている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携において、ご本人様に変化が見られた随時報告している。往診等の際には普段の様子を伝える等適切に医療が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供し、入院中の様子を伺ったり、退院前にはご家族様・病院と連携し、カンファレンスを行い、退院後の生活支援に万全を期す様に心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期において事業所のできる事出来ないことを事前に伝え理解していただいている。	重度化した場合の指針を契約時に説明し同意を得ている。最終段階での看取り介護は医療面で困難であるが、出来る事と出来ない事を含め、利用者にとって適切な介護の提供になるようチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しているが、今後研修を増やすことや、外部からの講師の研修を検討中である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の火災を想定した訓練では地域の方に協力していただいている。それ以外の災害に対してはマニュアルを準備段階である。	年に2度、避難訓練を地域住民に参加要請しながら実施している。また停電時を想定し冬季暖房用のストーブ等、必要な備品を徐々に揃え、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待防止の内部研修や外部研修への参加等で学び、また、学んだことの実行にも努めている。虐待防止・身体拘束廃止などの勉強会を通して、振り返りの機会も設けている。	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が選択する場面(おやつを選ぶ等)をつくり、声がけをしながら行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲でご本人のペースを尊重するよう努めている。施設の業務の流れに合わせるのではなくご本人様のリズムやペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の身体状況や生活歴を参考にして支援につなげている、訪問理容を利用している方もいらっしゃるなのでホーム内においてもおしゃれを楽しめる機会がある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備出来る利用者様は、今現在難しく、茶碗ふき、お盆ふき、テーブル拭きなどのお手伝いをお願いしている。アレルギー・食事の好みなど献立作成に反映している	料理はすべて手作りで提供し、テーブルやお皿、お碗等々の拭きもののお手伝いを利用者をお願いしながら楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量を記録し、把握できるようにしている。一人ひとりにあった普通食・刻み食・ミキサー食、とろみ付けなど、体調の状況や嚥下状態に応じて工夫をしながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔ケアを行っている個々の身体状況等を把握し必要な支援を行っている 又、必要に応じて、ご家族様と話し合っ、歯科受診などを話し合っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し適宜声掛けや、誘導、排泄のサイン等を見逃さず個々の状態に応じた支援ができるよう努めている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者個人に合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を促せる様に、食事・水分(牛乳・ヨーグルト・食物繊維の多いココア等)に工夫しているが、難しい方は医師のご指示のもと、薬を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に合わせて声掛けを行っている、無理にお誘いせず時間を置くなど工夫している、体調によってはシャワー浴や清拭等個々の状態にも応じた対応をしている。	毎日、浴槽にお湯を溜め、いつでも誰でもが入浴できる体制を維持しており、週に2回以上を目標に努めている。入浴拒否者には無理強ひすることなく、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えるのに大切な睡眠は、日中の運動や活動を多くして、不安な気持ちを取り除けるような接し方やコミュニケーションをとることにより安心して眠る事が出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は利用者全員分をファイルにし職員で確認できるようになっている。薬の変更などは受診記録などに記入し職員間で周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、縫い物、洗濯物干し等一人ひとりにあった役割が持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出のご希望には、なかなか難しいが、個々に可能な限り散歩や買い物等お応えできるよう心掛けている。春・夏・秋には、行事を利用し外出の機会を作っている。	遠くへの外出は年間で計画しており、また日常的な散歩や買い物は、天候と相談しながら行ない、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるがご本人で管理している方もいらっしゃいます、散歩などに出かけたついでに買い物などで金銭のやり取りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使える環境にあります。又お手紙や年賀状等もご家族へ確認しながら支援につなげている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはくつろげるようにソファや椅子が置いてあったり壁にはきれいな飾り付けも行い明るい空間を意識している。	食堂兼居間は、開放感にあふれ、広く落ち着いた空間で、湿度や温度も適切に管理され、快適な居場所となっている。廊下や食堂の壁には利用者の作品が飾られ、また花々に囲まれた楽しい雰囲気の共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいただいたり、椅子を好きな場所に移動していただいたり自由に過ごして頂けるようにしている。お食事を一人で摂りたいと希望のある方は、テーブルと椅子をお部屋へ用意する等の配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や身の回りの物を置くなど馴染みの物を用意していただいたり、ご本人様の意向に沿って冷蔵庫やテレビなどの配置もある。	居室には、昔から親しんだタンスや椅子が置かれており、温度や湿度も適正な環境の中で、壁には家族写真も見られるなど、自分の部屋として過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を見極め支援にあたることでご本人様の負担や不安を軽減しその方の能力を発揮した生活の支援に努めている。		